



東山代小学校便り

※学校ホームページ



2025. 7. 18

文責：中尾

※写真等パスワード
higashi07

◆「人にやさしく、まじめにがんばる子」

◆ 1学期の終業式での話

<一部抜粋>

明日から長い夏休みに入ります。何か取り組みたいことがあるでしょうか？何か目標があるでしょうか？

1つでいいので「自分の力でやり遂げた！」ということがあるといいと思います。

例えば、「家の人に頼らずに、自分の力で決まった時間に起きる」でもいいと思います。また、「だれにも頼らずに、自分が決めた時間に勉強する」「夏休みに、本を〇〇冊読む」「毎日、絵を描き続ける」等々、それは人それぞれでいいと思います。

よく「やるか、やらないかはあなた次第！」という言葉聞きますが、何かあいまいな気がしませんか？この言葉を、「やるのか」「あきらめるのか」という言葉に置き換えたらどうでしょうか。何か1つを、あきらめることなく、まじめにがんばって欲しいと思います。

何の努力もしないで目標を達成できるはずがありません。目標を達成するのは親でもなくあなた自身です。目標を達成するための近道はないと思います。あえて、あきらめることなく、まじめにがんばるという遠回りが必要なのかもしれません。

この夏休みは、少し自分に厳しい自分であってほしいと思います。そのことが、自由な中で充実した時間を過ごすことにつながると思います。

2学期の始業式で、こんなことに取り組んだ、こんな目標を達成したという話を聞くことができるのを楽しみにしています。

あなたは、この夏をどう過ごしますか？

2学期始業式の話は・・・

「挨拶とは？」「語先後礼（ごせんごれい）とは？」です。

◆人権意識の高揚を！（誰もが幸せであるために…）

毎年、伊万里市内の小・中学校、義務教育学校の校長会では「人権・同和教育」について研修を深めています。「21世紀は人権の世紀」と言われています。研修で心に残った言葉を紹介します。親子で考えていただくことができると幸いです。

- ・ 「足を踏まれた痛みは、踏まれた人にしか分からないと思います。差別を受けた人の心の痛みは、差別を受けた人にしか分からないと思います。40年、50年前の思いが沸き上がってきます。それは、悔しさや憤り、怒りや悲しみです。」
- ・ 「差別とは、自分がされて嫌なことです。差別とは、手を差し伸べられることのない寂しさ、辛さです。」
- ・ 「子どもたちを守ってください！心の傷は一生癒えることはありません！」
- ・ 「差別は『意識』の問題です。『意識』を正すものは『正しい知識』です。ネット社会にある誤った情報が差別を助長していないか心配です。『正しい知識』を子どもたちに身につけさせてください。」

◆アスリート派遣事業「川面 茜さんが東山代小学校に…」

7月2日(水)に、元プロバスケットボール選手の「川面 茜」さんに来校していただきました。川面さんは、「ジャパンエナジーJOMO」「サンフラワーズ(現 ENEOS サンフラワーズ)」で活躍されたアスリートです。2015年に現役を引退後、現在は JX-ENEOS バスケットボールクリニックのコーチを務めながら、各地で講演や指導などを行っていらっしゃいます。

6年生は、川面さんとバスケットボールというスポーツを通してふれあいました。6年生に尋ねると、「自分で考えて行動することの大切さ」「周りの人に感謝することの大切さ」を学んだということでした。これからも、本物との出会いによって感じる事ができる「憧れ」や「感動」「学び」等々を大切にしてほしいと思いました。



◆ほほえましい子どもの姿③

正門前の階段での光景です。「校長先生、おはようございます！道にごみが落ちていたので、拾ってきました！」と言いながら、低学年の女子が拾ってきたごみを見せてくれました。その子だけではなく、他にも同じような子がいます。見て見ぬふりをしてしまいがちですが…。この子たちに学ばされています。